

令和元年度国際理解ワークショップ タイトル・要旨一覧

大学名		テーマ	代表者名	タイトル	要旨
新潟国際情報大学	国 A	世界の現実	石塚 祐輝	無知な私たち ～難民から学ぶ理不尽な世界～	世の中には、理不尽にも平和な生活を奪われている人々がいる。またそれに無関心な社会がある。この現実には世界各地に存在しているが、このワークショップでは特に難民問題にフォーカスしたい。2018年、10,493人の人々が日本に難民申請をしたが、難民認定されたのはわずか42人だった。日本の難民認定制度は他国に比べて難民に厳しい現状がある。しかし多くの人がこの現状を知らない。私たちのワークショップを通して、難民問題に関心を持ってもらいたい。そして日本の難民受け入れの在り方について、これからの未来を創る参加者と共に考えていきたい。
	国 B	世界の不平等	小泉 きらら	ファストファッション ～服から見る不平等～	みなさんは服を買う時に何を基準にしているだろう。デザインや流行、値段、素材、あるいは誰が、どこで、どんな状況で作っているのかを考えるだろう。このワークショップではファストファッションを題材に、服の生産現場である途上国の過酷な労働環境に目を向け、これは途上国だけの問題なのか、また私たちとどのような関係があるのかを参加者とともを考える。そして私たちの消費行動が意図せず生産者やその人たちの暮らし、地球環境などに悪影響を与えていることに気づき、ワークショップ後の消費行動において人と社会、地球環境を意識する契機としたい。
	国 C		澁谷 歩	学校、今日、行く？ ～誰にも奪われてはいけない子どもたちの教育～	児童、生徒にとって最も身近な”教育”に関する不平等の問題に目を向ける。例えば、世界にはまだ学校に行けない子どもや読み書きができない子ども、学校に行くことができて十分に学ぶことができない子どもがいる。このような社会の構造に潜んでいる格差や構造的暴力に対して「私にできること」を参加者ととも考えていく。このワークショップを通して1人でも多くの人に、身近な問題から国際社会について興味・関心を持ってもらいたい。
	国 D	異文化理解	齋藤 秀弥	僕の考え、君の考え。 それってもしかして「偏見」？	「偏見」とは何だろうか？「偏見」とは良いことなのか、それとも悪いことなのか？そしてそれはどこから生まれてくるのだろうか？このワークショップでは参加者に、実は誰もが「偏見」を持っているということに気づいてもらい、「偏見」との付き合い方について考えてもらう。近年グローバル化が急速に進んでいる中で、私たちは自分たちが見慣れないと感じる対象と多くの関わりを持つようになっていく。そのため私たちは無意識に「偏見」を持つことが多くなった。このワークショップを通して、私たちと参加者がともに、それらを寛容に受け入れられる姿勢を持てるようになりたい。
敬和学園大学	敬 E	世界の現実	清水 華恋	水ってどこでもきれいなもの？ ～水から学ぶ環境問題～	世界にはきれいな水が当たり前存在する地域と、干ばつや水の汚染によりそれが簡単には手に入らない地域がある。私たちが暮らす日本は前者の地域に属しているため、きれいな水が健康で安全な生活に不可欠だという事実を実感している人はほとんどいない。そこで、実際に日本や世界で起こっている水に関する問題、生態系の破壊といった地球の問題の実態と原因を学び、命の源である水のありがたみを児童生徒とともに考えていきたい。
	敬 F		松澤 涼香	みんなで守ろうCHI・KYU・U！ ～多様な生物とともに生きていくために～	動物は私たち人間にとって日常生活を助けたり、ペットとして寄り添ってくれる身近な存在である。一方で現在、私たちは、世界中で人間の自己中心的な行動によって引き起こされた絶滅危惧種の増加、他方では生態系の破壊などの問題を抱えている。このワークショップでは、これらの問題の実態を明らかにしながら、対策を行っている諸外国の取り組みを例に出し、多様な生物が共存していくにはどうすればよいのか、児童・生徒との話し合いを通じて一人一人が考えるきっかけにしたい。
新潟県立大学	県 G	世界の現実	中村 博美 西潟 ひなた	ラチとは ～あなたならどうする～	現在深刻な国際問題となっている、北朝鮮による拉致問題を取り上げる。拉致の経緯や被害者及び家族の苦しみを児童・生徒に知ってもらい、解決に向けて自分には何ができるのかを当事者意識を持って考えてもらうことを目的とする。ワークショップでは、第一に自分や自分の家族が拉致されたらどうするか親身になって考えること、第二に解決に向けてこれから何ができるのかを、グループで考える活動を取り入れていく。そのことを通してタイトルにあるように「あなたならどうするのか」を児童・生徒に考えてもらい、拉致問題の解決および人権と家族の大切さを伝えたい。
	県 H	異文化理解 (英語)	金子 楓 玉橋 利沙	ひとりひとりの幸せ ～幸せは歩いてこない、だから歩いていくんだね～	英語を交えて、生徒と共に人生ゲームを制作しながら、「幸福」とは何か、何をもち「幸福」とされているのかを考えていく。富や成功が必ず「幸福」につながると言えるのか。逆に、それらがなければ「幸福」ではないのか。日本や他国の事例を用いて、様々な「幸福」の形を紹介する。人それぞれ「幸福」の形は違い、一人ひとり自分なりの「幸福」の形を追い求めるべきだということに気づいてもらいたい。
新潟大学	新 I	異文化理解	井上 桃	やさしい日本語で多文化共生	日本で暮らす外国人が増加している現状を、クイズ形式で紹介する。その中で多くの外国人が必ずしも英語を母語としないことを気づかせ、英語を母語としない外国人とのコミュニケーションのための方法を議論してもらおう。その後「やさしい日本語」という言葉を説明し、その例を一緒に考えていく。
	新 J		渡辺 真由	ハラルフードってなあに？ ～トンカツやとんこつラーメンが食べられない！？～	日本では、世界の多様な宗教に対する習慣などを学習する機会が少ない。このワークショップでは、近年注目されているイスラム教のハラルフードを取り上げ、イスラム教国の宗教事情・ハラルフードについて、日本のハラルフードの現状や東京オリンピックに向けての取り組みなどの関心の高い事柄を交えながら、クイズ形式などで考察する。このワークショップを通して、異文化理解への興味・関心を持ってもらう。
上越教育大学	上 K	世界の現実	関野 香織	水と私たち ～世界が抱える水のひみつ～	今日世界には、約七億人の人々が水不足の状況で生活しています。そのような状況を、子どもたちが実感するために、導入部では体感的な活動を取り入れ、日常当たり前享受している水への問題意識を喚起する。世界の水問題について理解を深め、一人ひとりが水の使い方を見直すこと、また小さなところからでも、何か行動を起こせることはないか、考えることが問題解決の糸口であることを自覚させ、自分たちのできる身近なことを考えるきっかけをつくる。
	上 L	異文化理解	一木 玲緒奈	あなたのメガネはどんな色？ ～のぞいてみよう！世界の文化、自分の気持ち～	近年、世界の様々な文化や人が国を超えて往来し、多様な人々との関わりが増えている。その中、人々の違いなど関係なく、共に支え合い、共に課題を解決して生きていくべき社会を迎えてきている我々。習慣や価値観、背景が異なる人々を、自分の考えのみで安易に判断するのではなく、その違いに興味をもち、違いがあっても当たり前と思えることが望ましい。このワークショップでは、様々なクイズやアクティビティを通して、自分の見方に向き合いながら、違いの捉え方について考えていく。
	上 M		菊地 明日香	お残しは許しまへんでっ！ ～学校給食から見える世界～	世界の学校給食を通して、その背景にある「文化の違い」や世界の実情に目を向ける。導入では、児童が日頃から食べている学校給食について触れ、世界の多くの国でも学校給食が食べられていることを知る。展開では、バングラデシュの学校給食を取り上げ、給食の内容から文化的・社会的背景について考える。また、バングラデシュに限られた条件の中で、学校給食のメニューを考える活動を通して、「文化の違い」や「貧困」について体験的に学び、自分たちにできることは何かを考えてもらいたい。
	上 N		上村 果穂	世界のおいしい食べ方	グローバル化の進展により、それぞれの国には独自の伝統と文化があるという理解や、それら多様性を尊重する態度を養うことが求められている。そこで、子どもたちにとって身近であり、違いを実感しやすい様々な食べ方の違いを知ることで、自国と異なる他国の文化の違いについて考えを深める。まず身近な食べ物のお話に触れ、様々な食べ方にはそれぞれの長所があることを考える。最終的には多様な食べ方やそれらの良さを知り、自分と異なる他者への尊重に繋げる。